

資料	3	—	1
平成 24 年 2 月 22 日 定例記者会見資料			

トークイベント in 酒蔵「表現すること・伝えること」

スローな非日常空間「酒蔵」へようこそ

福生市、シネマとトークでしかける。クリエイティブな「ひと」全員集合。

福生市で、トークイベント in 酒蔵「表現すること・伝えること」が開催される。福生市はもともと、アーティストやクリエイターなど、クリエイティブな人が集まる街だった。そんなイメージも、最近は薄れてきた。

そこで、福生という「まち」を、作品の素材にセレクトした二人のクリエイターを招いて、トークセッションを開催。映像や舞台文化に興味のある市外の方に、福生にきてもらうことをねらう。

お二人は、同世代であるだけでなく、広告業界での活躍、舞台での脚本・演出という共通項をもつ。内にある精神世界を目にみえる形にすることとはどういうことなのか。この仕事を通じて、伝えたいこととは何なのか。素材としての福生など、普段では聞けない話が伺えそうだ。福生市長も交え、酒蔵という非日常空間のなか、スローな雰囲気でも語り合う。

■日 時 3月24日(土) 午後2時から午後5時30分

■場 所 石川酒造(熊川1番地)

■参加費 無料 先着100人(要事前申込)

■内 容

◇第一部 映画「ミツコ感覚」上映会(プロジェクターによる上映)

山内ケンジ監督。初音映莉子主演。ほぼ全編福生で撮影。東京郊外に住む姉妹と2人を取り巻く人々のおかしな日常を描く。「ノルウェイの森」にも出演した初音映莉子は、この映画の後、ハリウッド映画「(仮題)エンペラー」のヒロインに大抜擢された。

◇第二部 トークセッション 鈴木聡氏×山内ケンジ氏×加藤市長

鈴木聡(作家) 1959年生まれ。1982年、(株)博報堂入社。コピーライターとして、サントリーワールド「ワンフィンガー、ツーフィンガー」などの有名キャッチコピーを生み出す。1984年、劇団「サラリーマン新劇喇叭屋(現 ラッパ屋)」を旗揚げし、劇作家としても始動。その後、NHK朝の連続テレビ小説の脚本も手がける。昨年、公開されたミュージカル「ア・ソング・フォー・ユー」は、70年代の福生を舞台に、歌に青春を捧げる若者達を、カーペンターズの名曲とともに描く。

山内ケンジ(映画監督) 1958年生まれ。早稲田大学卒業後、(株)電通映画社でCM製作に関わる。「ソフトバンクモバイル/白戸家」シリーズなど数々のヒットCMを手がける。その後、劇団城山羊の会で脚本、演出を担当。映画「ミツコ感覚」が初めての監督作品。

■申込方法 3月5日(月) 午前8時30分から電話とメール受付。詳細は市ホームページ参照。

■主 催 福生市・福生市ロケーションサービス

■問合せ シティセールス推進課産業活性化グループ

042-551-1699(直通)